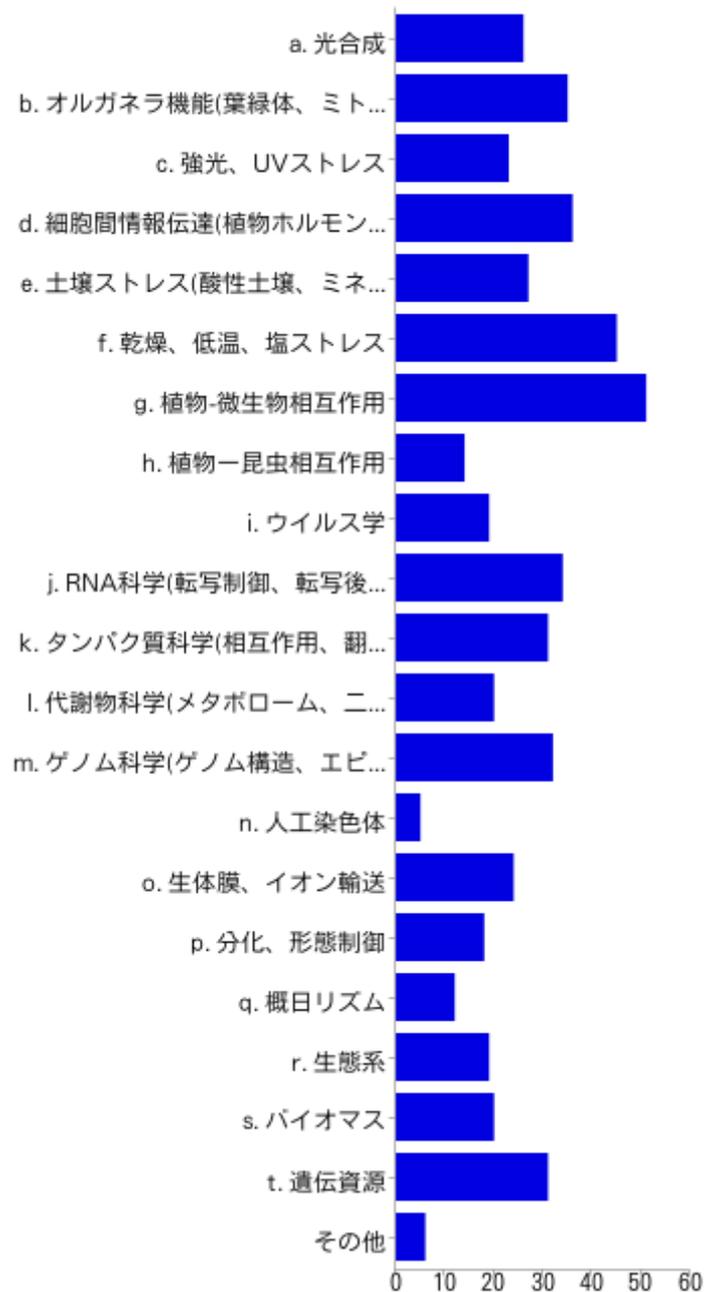


139 件の回答

概要

Q1. 以下の当研究拠点の特色ある研究のうち、ご自身の研究に近いもの、あるいは関心のあるものを1つ以上お選び下さい。



a. 光合成	26	18.7%
b. オルガネラ機能(葉緑体、ミトコンドリア、細胞内小器官)	35	25.2%
c. 強光、UVストレス	23	16.5%
d. 細胞間情報伝達(植物ホルモン、ペプチド、合成、分解、信号伝達)	36	25.9%
e. 土壌ストレス(酸性土壌、ミネラル、重金属)	27	19.4%
f. 乾燥、低温、塩ストレス	45	32.4%
g. 植物-微生物相互作用	51	36.7%
h. 植物-昆虫相互作用	14	10.1%
i. ウイルス学	19	13.7%
j. RNA科学(転写制御、転写後制御、microRNA、トランスクリプトーム)	34	24.5%
k. タンパク質科学(相互作用、翻訳、翻訳後修飾、分解 制御、プロテオーム)	31	22.3%
l. 代謝物科学(メタボローム、二次代謝物)	20	14.4%
m. ゲノム科学(ゲノム構造、エピジェネティック制御)	32	23%
n. 人工染色体	5	3.6%
o. 生体膜、イオン輸送	24	17.3%
p. 分化、形態制御	18	12.9%
q. 概日リズム	12	8.6%
r. 生態系	19	13.7%
s. バイオマス	20	14.4%
t. 遺伝資源	31	22.3%
その他	6	4.3%

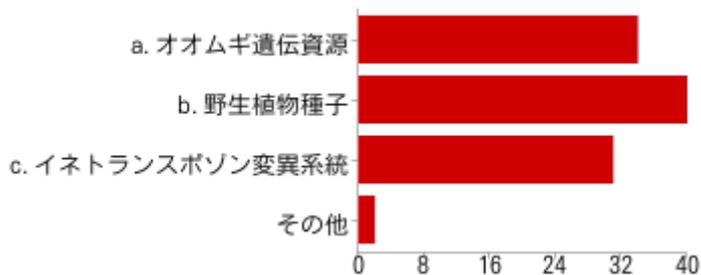
Q2. 以下の当研究拠点の研究設備・機器のうち、利用した、あるいは利用してみたいものをお選び下さい。



a. 透過型電子顕微鏡、HITACHI H-7650	20	16.9%
b. 走査型電子顕微鏡、FEI Qanta250	20	16.9%
c. 共焦点レーザー顕微鏡、Olympus FV1000d	40	33.9%
d. MALDI-TOF-質量分析装置、BRUKER UltraFLEX	41	34.7%
e. LC-質量分析装置、Agilent 6410LC/MSQQQ	37	31.4%
f. ICP-質量分析装置、Agilent7500cx	30	25.4%
g. DNAシークエンサー、ABI3130xl? ABI3100	20	16.9%
h. DNAマイクロアレイスキャナ、Agilent G2565CA003	24	20.3%
i. 高性能マイクロアレイスキャナ、イルミナ iScan system	21	17.8%
j. 光合成蒸散測定装置、メイワフォーシス、LI-6400XT	27	22.9%
k. 植物細胞電位解析システム、Axoclamp900A & Multiclamp700B	25	21.2%
l. 植物育成装置、ESPEC	18	15.3%
m. 遺伝子組換え体対応温室	30	25.4%
n. 超遠心機	8	6.8%
その他	2	1.7%

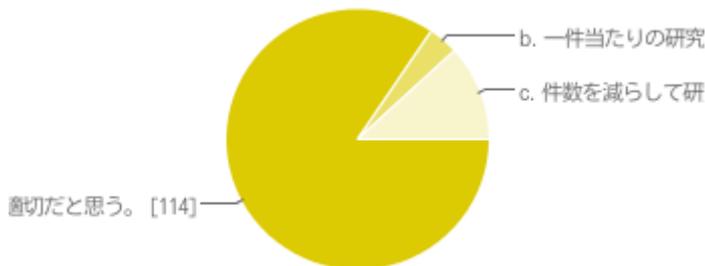
Q3. 以下の当研究拠点の学術資料・リソースのうち、利用した、あるいは

利用してみたいものをお選び下さい。



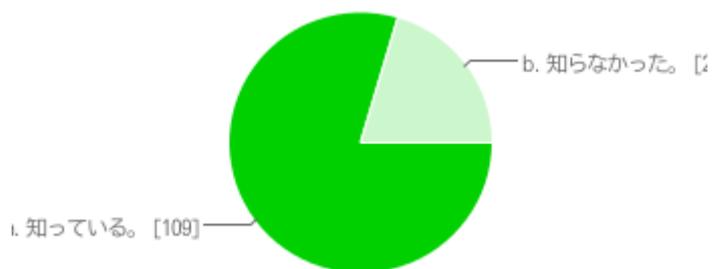
a. オオムギ遺伝資源	34	40%
b. 野生植物種子	40	47.1%
c. イネトランスポゾン変異系統	31	36.5%
その他	2	2.4%

Q4. 当研究拠点で採択した共同研究課題数は、平成22年度31課題、平成23年度40課題、平成24年度56課題で、25年度47課題で、26年度55課題で、27年度63課題で、それぞれ一律20万円程度の研究費(消耗品費)を支給しています。これについてどう思われますか。



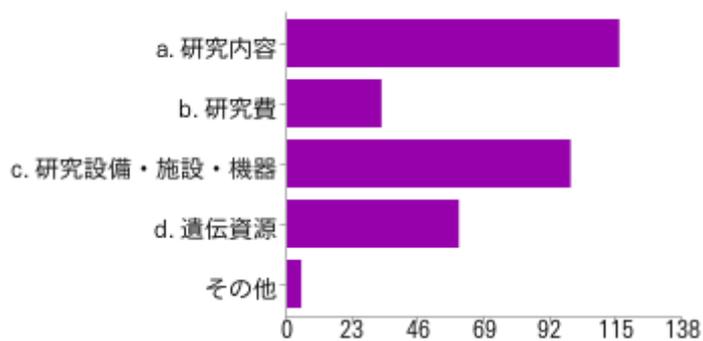
a. 適切だと思う。	114	84.4%
b. 一件当たりの研究費を減らして件数を増やすべき。	5	3.7%
c. 件数を減らして研究費を増額するべき。	16	11.9%

Q5. 当研究拠点は、共同研究者の来所の利便性を図るために、敷地内に宿舎(倉敷ゲストハウス)を設けております(平成24年7月開所)。これについてご存知でしたか。



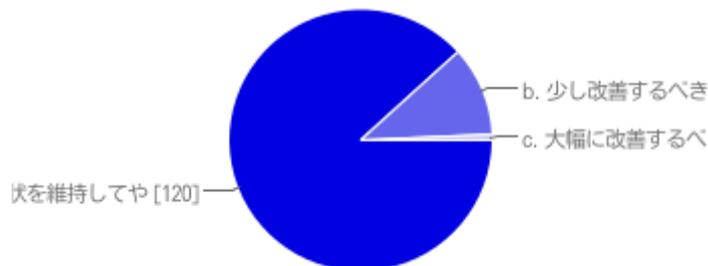
a. 知っている。	109	79.6%
b. 知らなかった。	28	20.4%

Q6. 当研究拠点の共同研究で魅力を感じるものをお選び下さい。



a. 研究内容	116	84.7%
b. 研究費	33	24.1%
c. 研究設備・施設・機器	99	72.3%
d. 遺伝資源	60	43.8%
その他	5	3.6%

Q7. 当研究拠点の共同研究拠点としての今後の活動について、以下からお選びください。



- | | | |
|---------------------|-----|-------|
| a. 現状を維持してやっていけばよい。 | 120 | 88.2% |
| b. 少し改善するべきである。 | 15 | 11% |
| c. 大幅に改善するべきである。 | 1 | 0.7% |

Q8. Q7について、改善すべき点があればご記入ください。

遠方の共同研究者にとっては、成果発表会などは岡山駅前で行ってもらえると助かると思います。

いつもお世話になっております。

ゲストハウスの利便性（食事、鍵の受領時間）の向上 ポスター会場を十分なスペースがある部屋に

技術力の進化

他研究所も予算を少し使えるのが望ましい。

研究所への交通手段として自家用車を認めて欲しい

研究費（消耗品費）について。研究内容によって、消耗品費を増減させても良いかもしれない。共同研究者へのフィードバック（評価まではいかなくても、来所回数や業績などに関する評価のようなもの）があっても良いかもしれない。

幅広い専門家の方々とのDiscussionの機会を得られることが有意義と思います。

単年度でなく数年継続する研究分野があるとよい。研究経費については内容に応じて傾斜配分でもよいと思う。

20万円の研究費を支給よりは、旅費や貴研究所の機器利用に関する費用に充てた方がよいと思います。また、共同研究課題が多過ぎて、研究所の教職員の方の負担が重いように思います。重点的に精査する少数の研究課題と旅費のみを支給する研究課題に分けた方がよいように思います。

特にありません。大変助かっています。

予算が限られているので、難しいと思いますが、件数を減らさず消耗品費をもう少し増額するべきだと思います。

共同研究にかかる予算の執行は、研究所でないといけない、というルールを改正してほしい。ほかの研究場所でも利用できれば、研究はより進むと思う。

公募テーマ設定の競争率の明示。（参考程度）

事務の対応（一部の方だと思えますが）

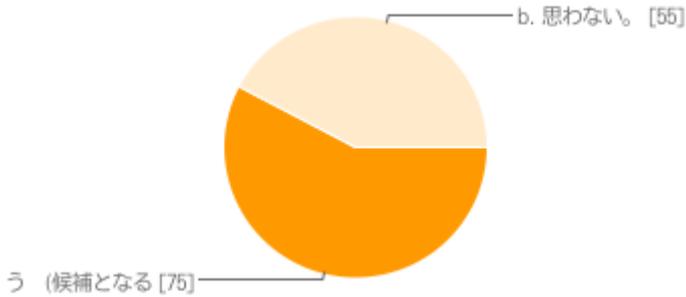
植物科学のヒトにも余り知られていないような気がする。学会大会などで、シンポを開いたり、より、多くの人が集まる場所で、この拠点に関する広告をしても良いと思う。岡山でシンポなどをやっても、一部の人しかいかないし。

新たな機器を更新して行って欲しい。

研究分野を増やすことができればよいと思います。

予算の関係もありますが、次世代シーケンサーによるデータ取得とその解析について設備・研究メニューに入れて頂くとより発展が期待できるのではないかと考える。

Q9. 当研究拠点を基点として、海外の研究者または研究組織と共同研究などの研究交流を促進したいと考えていますが、当研究拠点を利用して海外の研究者・研究組織と共同研究を行いたいと思われませんか。



- a. 思う (候補となる研究組織等があれば、記入して下さい)。 **75** 57.7%
- b. 思わない。 **55** 42.3%

候補となる研究組織があれば、記入して下さい。

IPMB

IRRI

特になし

Donald Danforth Plant Science Center

Academia Sinica, Taiwanなど

タイ国コンケン大学...大きな農場がありタイに特有のイネ品種などがある。イネの多様性研究として共同研究を立ち上げてはどうでしょうか。遺伝子組み換えにも興味のあるスタッフはいます。分子生物学に習熟した私の知人もおりますので仲介可能です。

Umeå Plant Science Centre

Nordic Genetic Resource Center

フランスCNRS

オーストラリアCSIRO

ノーブルファンデーション

Academia Sinicaなど

INRA (フランス)、MPIZ (ドイツ)

(i) University of Tasmania, Agriculture and Food Systems, Australia (ii) University of Milan, Dept. of Bioscience, Italy

海外との研究交流自体には興味はあるが、それを行う際に当研究拠点を基点とする意義やメリットが不明瞭なので正直お答えしにくい。条件によっては興味はある。

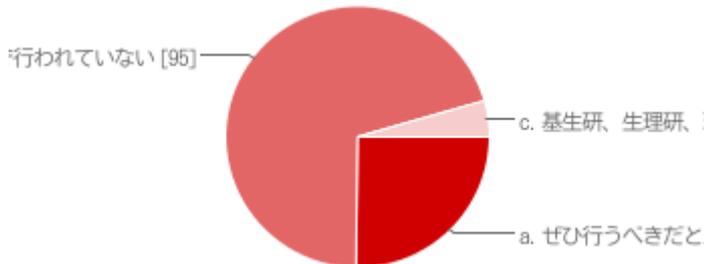
岡山大学の先生方が、積極的に海外との交流を深めて頂くのは結構だと思います。ただし岡山大以外の特に遠隔地の研究者は、貴研究設備を用いての海外との共同研究となると、間接的になってしまうばかりか、かえって岡山大の先生方にご迷惑を

おかけすることにもなり、あまり現実的ではないようにも思います。

The Hebrew University of Jerusalem

具体的にはありません。

Q10. 全国の研究者にむけて、特定の実験・解析方法に関する技術講習会、トレーニングコース等を開催すべきだと思われませんか。



- a. ぜひ行うべきだと思う。 34 25.2%
- b. 他で行われていない内容のものならやってはどうか。 95 70.4%
- c. 基生研、生理研、理研等でよく行われているのでその必要はない。 6 4.4%

Q11. 当研究拠点を利用された場合に、どのような利点が考えられるでしょうか。ご自由にお書きください。

植物研の研究者との研究交流や共同研究ができる点。

オオムギの遺伝子組換えなど、国内では他に殆ど出来ないユニークな実験を行える。

設備を利用した研究に関して、様々な助言がもらえる点

研究レベルが高いので、研究討論をさせて頂ければ有り難い。

先端分野の研究者とのDiscussionができる。個人持ちが難しい高額な解析機器の使用ができる。

技術、装置、知識の相互補完

自身の研究室だけでは実施できない研究を実施できる。

ユニークなリソース。

機器の利用について習熟したスタッフがいる。遺伝子組み換え温室も清潔で使い勝手がよい。高額機器を使うことができる。

大都市にある大学とは異なり、フィールドがあり、すぐに解析が可能

トップレベルの研究者が多く在籍するので、共同研究により研究を進展させられる。

遺伝資源の利用例などのシンポジウムがあると、活用方法の多様性を知ることができ、次の展開への参考になると思う。

利用者の専門領域にとらわれず、植物ストレス科学の専門技術や先端機器を用いた

共同研究が可能となり、研究課題の効率的な推進のみならず、高度化やブレークスルーも期待される。

最新情報や技術の交換

設備が利用できる

私が勤務する大学と近く、日帰りも可能なので、共同研究を気軽にしやすい。

学会以外での研究者交流の場。

受け入れ研究者だけでなく、他の研究者とも密なディスカッションができる。

充実した実験機材等が使える

機器の運用実績が高いので、拠点を利用することにより出てくるデータの信頼性が高い事が利点として挙げられます。

研究の推進

貴重な遺伝資源を利用できるのが利点だと思われる。

北海道では入手しにくい圃場環境および遺伝資源の利用が可能である。植物遺伝学との共同研究によって新たな領域を開拓することができる。

研究における情報交換ができる。他大学の研究者の方と接することができる。生化学をベースとした研究を行っているため、生理学もしくは遺伝学の知見に基づいた研究成果との情報交換は非常に助かっている。

研究者間の交流、情報交換。大学院生への教育効果。

植物ホルモン定量など個人の研究室では確立の難しい技術の提供。

研究拠点に在籍する研究者の協力と財政的援助

地方大学には無い、植物研究に関する先端機器が使用できる。

植物研究者のコミュニティがあり、情報交換の場として多いに役立つ

ユニークな実験技術の習得

所属する研究機関にない測定機器や豊富かつ特殊な遺伝資源が存在する。

オオムギの遺伝子資源に加えて、本学にはない圃場、閉鎖系温室等をお借りする利点は非常に大きく助かっています。また、学生等も含めて旅費を支出していただくのは非常に助かりました。

1. 当該分野を先導している所内外の研究者とディスカッションできる点 2. 研究設備・機器を熟練した研究者とともに利用できる点

当方ない技術および装置を有しており、共同研究によりの自らの進展がもたらされる。また非常に自由な雰囲気であり難い。

オオムギ遺伝資源を利用される方には、非常に利点があると思います。

本学研究施設にない機器類でのデータ取得ができる点が一番の効果であると考え

る。

優れた遺伝資源とアクセスしやすいほ場などの素晴らしい環境と独創的な研究テーマ。

専門分野の最新の情報が得られるほか、成績検討会等を通じて、異分野の研究者間でコネクションが広がる

現在の職場から比較的近いので、アクセスが容易である。

例えば、Q10のような技術講習会やトレーニングコースを開催される場合に、一部にしても資金援助（旅費だけでなく、講習会費）の制度があると良いように思います。

研究全体が異なる分野の専門家の結集が必要となっている時代なので、なるべく多くの研究交流の場を国内に設けるべきところ。岡山大には優秀な先生が多くいらっしゃるのでもその意味での拠点としての意義は大きい。

植物研究者との交流

植物ストレス関連の研究者と意見交換ができる点

他にはない独自の遺伝資源を保有している点は素晴らしい。共同研究者も真摯に対応していただけるのでとても助かっています。

遺伝資源と栽培・実験法・データ利用等の資源利用について指導助言を得られる。MALD-TOF MAS装置に系統分類ソフトがインストールされていて、利用法も指導して頂ける。

共同研究の活発化、関連研究のレベル向上

所属先では利用できない機器を利用することで、研究の新しい展開を迅速に進めることができる。大奥の幅広い専門家の方とDiscussionを通じて、視野が広まる。

日本全国の様々な分野の植物研究者と容易に交流できる。

Q12. 植物ストレス科学研究ネットワーク(PSSnet)に、どのような活動を望まれますか。ご自由にお書き下さい。

大学院生の受け入れ等の交流が活発になるような仕組みがあるといいかと思えます。例えば、奨学制度の充実や、大学間連携協定の拡大など。

特になし

細胞質ゲノム研究

共同研究の提案や募集など

まずは色々な情報（研究材料、研究手法、研究会や国際会議の案内、植物ストレス科学に関するプロジェクト応募案内、ポスドク募集や採用公募情報等）を頂けると有り難く存じます。

編集後記が面白いです。

メルマガに植物ストレス科学に関わる注目論文や研究技術の解説記事、大型プロジェクトの研究紹介（JSPSや農水系）などもあったらよいと思います。

現在のactivityを維持するだけでもなかなか大変なことであると拝察します。今後もこれまでと同様の内容で継続して頂ければ十分かつありがたく存じます。

植物ストレス研究を行う際、さまざまな研究材料やストレス条件に関してスタンダードとなるような実験条件を議論しその樹立をコミュニティとして目指してはどうでしょうか。

メーリングリストはいつも拝見しているが、それ以外の活動が見えてこないのが、このネットワークの意義があまり見えないのが残念な部分です。これを母体にして、参加型のイベントや講習会を行い、実際に活動が目に見える形になると良い

が、それはそれで大変かと思うので、そこまで要求はできないかとは思いますが。

定期的を送られてくるメールマガジンはよく読ませていただいています。幅広いトピックを掲載されると良いと思いますし、研究者のエッセイ（海外研究者訪問記など）のような内容も良いと思います。

今後とも関係分野の研究交流・研究活性化にご尽力を賜れば幸いです。

植物研におけるイベント通知などの情報提供。植物科学研究における様々な問題提起やそれに対する意見交換の場？

ストレス科学に特化した情報を発信し、nazuna等とは差別化を図る。

今後も継続して活動して欲しい。

同分野、異分野に限らず、研究者と研究者の架け橋となること。

メールの編集後記を楽しみにしています。

メールマガジンの継続

現状の活動でも利用者に大きな利点があるが、利用できる機器がもっと広がることで、新しい利用者希望者も増えると思う。

すでに十分な活動をされていると思いますので、このままの活動を是非とも進めて頂きたいと思います。

継続的な・・・永く地道な活動を期待しております。

研究の担い手は主に大学院生なので大学院生の交流があるとよい。実験やセミナーなど。

最先端情報やタイムリーな話題に関する交流会やワークショップの開催

メルマガたいへんよい

植物関係研究者以外との交流を積極的に進めていただきたい。

現状を維持し継続して行ってほしい。

研究者の輪を広げる取り組み（積極的にいろいろな分野の研究者に声をかけるなど）。

これまでの活動で当初のビジョンは達成できていると思う。あまり、手を広げすぎずに、人と人との交流により植物のストレスに関わる植物科学の進展に寄与することを望みます。

現状でよろしいかと思えます。

植物学会大会などでのシンポジウムや、サテライト会議の開催

現在の活動を維持するのも大変だと思うので、あまり手を広げすぎない方が良いのではないかと。

ネットワークのなかに参加している人々は、独自の分野・視点・考え方から構成されていると思うので、各異分野独特の考え方を学べるような交流をしていただけるとおもしろいと思います（園芸学と植物学の違いなど）。

セミナー、技術講習会のお知らせ

研究装置と技法の紹介

Q13. その他、当研究所の共同研究拠点としての活動について、ご意見、ご

要望がございましたら、ご自由にお書きください。

近年は研究の出口を求められ、実学志向が強くなっている。基礎研究の意義を見出し、研究申請を評価してもらいたいと思う。貴学の共同研究にはこの姿勢が見られて好感が持てる。

以前共同研究課題として採択していただき、研究を進展させることができた。様々な面で面倒をよく見ていただき、大変感謝している。

岡山周辺の自然植生や提携農地（農薬分解菌やメタン生成菌、その他微生物資材探索源として）などがあれば、是非、利用してみたいのですが...

難しいでしょうが、独自財源をできるだけ開拓して、non profit organizationとしての自由な研究活動の場をめざして欲しい。

非常に良い環境で研究させていただき、担当下さる先生方も熱心かつ献身的に研究に協力して下さいととても助かっております。これに加えて、事務を担当される方々もとても明るく接して下さいますので、共同研究にお伺いすることが楽しみになっています。これからもさらにご発展されることを強く希望します。

特になし

こちらの希望にそって共同研究をしていただいているので、大変助かっている。

植物ストレス科学研究ネットワークメールマガジンのあとがき、いつも楽しく読ませて頂いております。

公募課題の中に、拠点活動の目玉になる様なプロジェクト型の共同研究（複数の受け入れ教員や共同研究者が参画する）を設けてはいかがでしょうか？ Q9の国際共同研究の拠点としての活動に加えて、国内の共同研究の橋渡しの役割もぜひ強化していただければと思います。

今年度から開始した段階です。谷先生はじめ研究所の方々が懇切に対応して下さい感謝しております。

植物科学研究の国際拠点を目指して欲しい。

ご活躍を祈念いたします。

これまで研究拠点として利用させてもらいとてもありがたい。また、学生がトレーニングコースに参加させてもらったが、大変有用であり、かつ学生のモチベーションが大変あがって帰って来た。是非今後も続けてほしい。

共同研究拠点として、日本の植物研究に非常に貢献されている。今後の活動の継続を希望したい。継続的な支援が行われることにより、短期間で業績が出る研究だけでなく、挑戦的な研究内容に対する支援も可能になる。

研究機器等の利用については、他の研究機関と重複するものを多いかと思いますので、実験デザインやデータマイニング等のソフト面を充実させた方が良いと思います。

本当に助かっています。研究成果を出すことへのモチベーションにもつながっています。

形式的な活動より、気楽で、自由感の感じられる活動

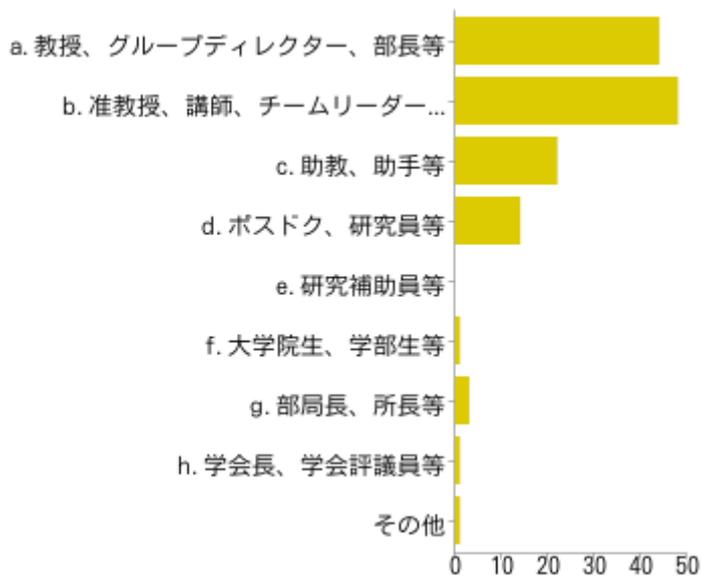
もう少し論文としての成果が上がるよう期待します。

西日本の共同研究拠点の中心として発展していただきたい。

貴研究所には優秀な研究者が在籍しているので、共同研究拠点としての活動が個人の研究活動の大きな障害とならないように、共同研究のための機器管理などについては、技術職員枠の拡大などが可能であれば素晴らしい。

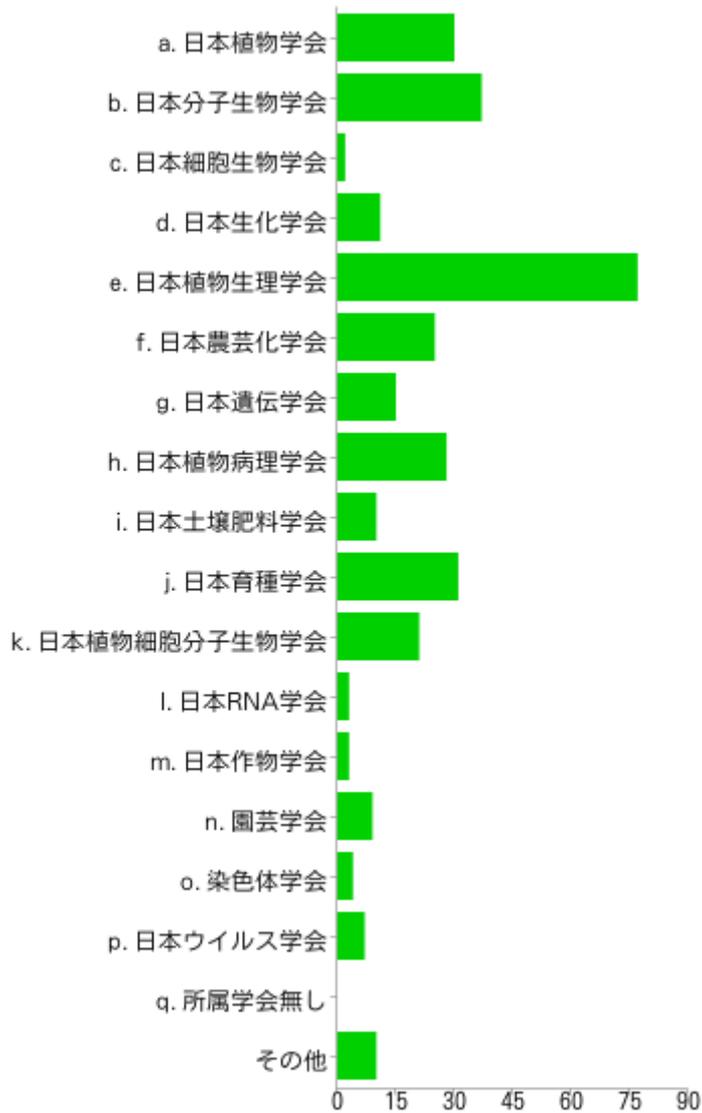
これからも是非とも共同研究の活動を維持・発展して欲しい

Q14. あなたの身分をお答えください。



a. 教授、グループディレクター、部長等	44	33.3%
b. 准教授、講師、チームリーダー、室長等	48	36.4%
c. 助教、助手等	22	16.7%
d. ポスドク、研究員等	14	10.6%
e. 研究補助員等	0	0%
f. 大学院生、学部生等	1	0.8%
g. 部局長、所長等	3	2.3%
h. 学会長、学会評議員等	1	0.8%
その他	1	0.8%

Q15. あなたが活動されている所属学会は。



a. 日本植物学会	30	22.4%
b. 日本分子生物学会	37	27.6%
c. 日本細胞生物学会	2	1.5%
d. 日本生化学会	11	8.2%
e. 日本植物生理学会	77	57.5%
f. 日本農芸化学会	25	18.7%
g. 日本遺伝学会	15	11.2%
h. 日本植物病理学会	28	20.9%
i. 日本土壌肥料学会	10	7.5%
j. 日本育種学会	31	23.1%
k. 日本植物細胞分子生物学会	21	15.7%
l. 日本RNA学会	3	2.2%
m. 日本作物学会	3	2.2%

n. 園芸学会	9	6.7%
o. 染色体学会	4	3%
p. 日本ウイルス学会	7	5.2%
q. 所属学会無し	0	0%
その他	10	7.5%

Q16. ご意見・ご感想をどうぞ。

時々送られてくるメルマガ（特に「編集後記」）を楽しく読ませていただいています。

さらなるご発展を期待申し上げます。

大変意義のあるアンケートであると思います。今後の研究拠点の発展につながることを期待します。

特になし

これからもよろしく願いいたします。

大変ありがたい制度なので是非このまま続けてほしい。

メルマガのあとがき、いつも楽しく読ませて頂いております。これからも期待しています！

園芸学会の正式名称は、「日本園芸学会」ではなく「園芸学会」です。よろしくお願い致します。

いつもありがとうございます。

共同研究者紹介No.1で寺地先生も執筆されておりましたが、、、編集後記を毎回楽しみに拝読しております。どんなに忙しくても必ず目を通し、自らを省みるきっかけとさせて頂いており、学びの場としての価値を強く実感しております。貴研究所がご発信される情報、研究所設置の歴史・意義を知るうち、当初は予定の無かった共同研究というアイデアもいつしか芽生えてまいりました。研究所の益々のご発展を心よりお祈りいたしております。

貴研究所の共同研究拠点化は、植物科学研究のボトムアップに確実に繋がっていると思います。貴研究所の教職員の方と共同利用者の双方がメリットがあるように利用システムを改善していただき、できるだけ長く研究支援事業を続けていただければと思います。

大変助かっているので、一年でも長く続けていただきたい。

いつも有益な情報提供をありがとうございます。

御活動が長く続くことを願っています。今後とも宜しく願います。

共同研究およびその成果報告会の開催はとても良い取り組みですので、今後も継続して頂きたいです。

今後ともよろしく願いいたします。

情報提供をいつも楽しみにしております。これからもよろしく願います。

植物を全面に押し出した共同研究拠点は少ないので、植物研の存在は重要。

近年の気候変動のためか、現場の農業、生産現場では、高温・低温傷害、早ばつ害や湿害、それに伴った病害の発生がしばしば大きな問題になっている。改めて環境ストレスや生物ストレスに関するの研究の重要性を認識している。応用研究も含め、研究所の更なる発展に期待したい。

先日、担当の学生ともども伺いました。共同研究は学生の教育上もとても良い刺激になっています。教育面からもみてもこのシステムは効果が高いと考えます。スタッフも皆さんの負担が過重にならない範囲でこれからも予算や規模を拡大していただけるとよいと思います。

これからも共同研究拠点の活動が維持されることを期待しております。

共同研究につきましてたいへんお世話になりました。ありがとうございました。こうした企画をていねいに実践されておられることに敬意を表します。